

(様式3)

会議の開催結果について

1 会議名	河内長野市立休日急病診療所運営委員会
2 開催日時	令和3年1月19日(火) 午後2時00分から午後2時40分まで
3 開催場所	河内長野市立休日急病診療所 2階 大会議室
4 会議の概要	(1) 委員の選任について (2) 患者統計資料報告について (3) 使用薬品について ① 使用薬剤一覧表<単価契約用> ② 廃棄薬リスト ③ 薬局からの提案事項 (4) 障害児(者) 歯科診療事業の実施状況について (5) その他
5 公開・非公開の別 (理由)	公開
6 傍聴人数	0名
7 問い合わせ先	(担当課名) 市民保健部 健康推進課 (内線 146)
8 その他	

*同一の会議が1週間以内に複数回開催された場合は、まとめて記入できるものとする。

令和2年度河内長野市立休日急病診療所 運営委員会 会議議事録

○日 時 令和3年1月19日（火）午後2時00分から2時40分まで

○場 所 河内長野市立休日急病診療所 2階 大会議室

〈案件〉

（1）委員の選任について

（2）患者統計資料報告について

- ① 月別患者数
- ② 転送患者数・年末年始患者数
- ③ 市内、市外別患者数
- ④ 年齢別患者数・医師判断
- ⑤ 診療日数、患者数等
- ⑥ インフルエンザ患者数

（3）使用薬品について

- ① 使用薬剤一覧表＜単価契約用＞
- ② 廃棄薬リスト
- ③ 薬局からの提案事項

（4）障害児（者）歯科診療事業の実施状況について

- ① 患者統計資料
- ② 年齢別患者数

（5）その他

〈出席者〉

中林 才治（河内長野市医師会を代表する者）

大谷 明久（河内長野市医師会を代表する者）

森川 栄司（河内長野市医師会を代表する者）

谷 英樹（河内長野市歯科医師会を代表する者）

中西 晴彦（河内長野市歯科医師会を代表する者）

船多 大（河内長野市薬剤師会を代表する者）

藤山 治（河内長野市薬剤師会を代表する者）

堀川 和彦（河内長野市議会を代表する者）

原 歴史（河内長野市議会を代表する者）

〈欠席者〉

外山 佳子（休日急病診療所管理医師）

○傍聴について

傍聴者なし

(1) 委員長、副委員長の選任

委員会一任で

委員長 中林 才治

副委員長 森川 栄司

副委員長 中西 晴彦

副委員長 船多 大

に決定する。

(2) 患者統計資料報告について

① 月別患者数について

令和2年度(12月末まで)患者数は359人、診療日数91日、1日平均3.9人、内訳は内科270人、その他(皮膚科、耳鼻科に該当する場合)21人、歯科68人

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、受診者数が少なくなっている。

令和元年度4月～12月末までの合計が1,093人であったので、約3分の1の患者数となっている。

② 転送患者数・年末年始患者数について

令和2年度(12月末まで)は7件、令和元年度は年間で17件。

年末年始について今年度は、昨年度に比べ、306名の減少となっている。新型コロナウイルス感染症流行の影響、及びインフルエンザの罹患数が少ないことが要因と考えられる。

年末年始における発熱患者等への迅速な診断・治療、及び診療検査体制の確保のため、医師会の先生方からのご提案・ご協力の下、休日急病診療所において、発熱等患者に対し、インフルエンザ検査と同時に新型コロナウイルス感染症の検査を実施した。12月30日～1月3日の5日間で合計29名に対して検査を実施し、その内陽性者数は2名であった。

③ 市内・市外別患者数について

患者数359人の内、91.9%が市内患者

④ 年齢別患者数・医師判断について

20歳代と70歳代が全体の16.7%と一番多く占め、50歳代が13.9%となっている。

医師判断については、受診者の73.5%が「本日の受診がのぞましかった」、21.6%が「翌日でもよかった」、4.8%が「前日に受診すべきだった」となっている。

⑤ 診療日数、患者数等について

1日平均の患者数について、平成30年度は15.9人、令和元年度は13.6人、令和2年度は3.9人（12月末まで）

近隣の市町村については、隣接する富田林市、大阪狭山市、千早赤阪村からの患者が多く、また、他府県の患者については、5月の連休、年末年始の帰省の際に病気にかかれ、休日急病診療所を利用される患者が多い。

⑥ インフルエンザ患者数について

令和2年度の12月末までの受診者について、インフルエンザ陽性患者はいなかった。マスク着用、手洗いうがいなど新型コロナウイルス感染症の予防をほとんどの方が実施されていることもインフルエンザ患者がいらない要因と考えられる。

（3）使用薬品について

（船多委員）

令和3年度の単価契約表（案）が2枚と廃棄薬リストが1枚、廃棄薬リストを基に商品を1品挙げている。

廃棄薬リストについて、星印が付いているがこれは未開封のまま廃棄となった薬品を示している。2020年度は冷蔵庫の不調により廃棄した薬があるが、運営委員会で使用薬品を整理したことにより、廃棄は少なくなっている。経過措置の終了や販売終了により廃棄に至ったものもある。

資料2-3について、ビスルボン錠2021年12月発売中止予定で2022年3月に経過措置期間満了の予定となっている。代替薬品としてムコソルバンを既に採用しているため、経過措置期間が満了となれば単価契約表から外しても良いのではないかと考えている。ご審議願いたい。

（大谷委員）

無くなり次第終了で良いのではないかと思います。

（船多委員）

残っている薬品の扱いはどうするか。

（大谷委員）

残っている薬品を廃棄する必要はないが、無くなっても新たに購入する必要はないと考える。

（中林委員長）

ビスルボン錠は無くなり次第終了し、新たな在庫は設けないということとする。

（中西委員）

単価契約表の薬効名の欄に内用・外用・歯等の記載があるが、記載のない箇所がある。どのような意図があるのか。記載以外の用途で使用はできないのか。

（船多委員）

従来からのなごりで記載されているが、医科・歯科それぞれに使用を限定している

ものではない。記載内容に拘らずに使用していただける。

(4) 障害児（者）歯科診療事業の実施状況について

① 患者統計資料について

令和2年度の1日当たりの患者数は11.8人。

令和2年度（12月末まで）の患者数は450名、450名のうち241名（53.5%）が市内の方である。令和元年度の患者数は581名だったので、約130名減少しているが、これは5、6月の緊急事態宣言が発出されていた期間、予約人数を少なくしていたことによるもの。緊急事態宣言解除後は通常通りの予約人数1日15名程度としている。

② 年齢別患者数について

令和2年度は受診者の22.7%が30歳代の方、21.6%が40歳代の方、次に18.7%が30歳代の方となっている。

（中林委員長）

歯科医師会の先生方何かご意見はないか。

（中西委員）

会員より特に声が上がっていないので問題ない。

(4) その他

（事務局）

保健センター等整備事業の状況等について説明。

昨年1月20日に着工した保健センター等整備工事は現在予定通りの進捗となっている。3月下旬に完成、引き渡し後、竣工式を予定している。詳細が決まり次第、各師会及び市議会宛て案内を行う。

また、施設完成後の移転作業に伴い、休日急病診療所においては3月27日、28日、及び4月3日、4日の4日間、障がい児（者）歯科診療においては3月25日及び4月1日の2日間を休診とする。

（中林委員長）

施設の場所も変わるので皆様ご協力どうぞよろしくお願いします。

今般のコロナ禍においては皆様大変ご苦勞をなさっているかと思う。我々もそうだが、特に歯科医師の先生方については直接口腔内に触れることから恐怖の中で過ごされているかと思う。今後ともどうぞよろしくお願いします。

皆様ご承知の通り、今後はコロナワクチンの接種体制を整えていかなければならない。各先生方の御協力をお願いします。

本日の案件は以上で全て終了しました。ありがとうございました。